第６版の序

本書は，1963 年（昭和 38 年）に第 1 版の発行以来，昭和と平成において 6 回の改訂を経て，この度，令和となって最初となる第 6 版を発行することとなった．

前書となる第 5 版増補は東日本大震災が発生した直後の 2011 年（平成 23 年）5 月に発行し，約 9 年が経過した．この間，津波に対する設計方法を始め，特定天井や CLT 構造等に関する各種構造関係法令等の改正があった．さらに，基礎杭の支持層未達による建築物の沈下や免震装置の偽装事件，地震によるブロック塀の転倒など，構造の安全性の確保に対して社会的な関心や要請が高まったといえる．

本書は，改正された最新の法令，新たな知見のもと改定された学会規準等に対応を図ることとし，すべての章を見直した．とりわけ 3 章は建築基準法および施行令等の構造関係規定に基づく構造計算を体系的に整理し，木造，既存建築物への増改築，エネルギーの釣合いに基づく耐震計算に関する規定等を追加した．5 章には近年の木材利用の促進を反映して CLT 構造を追加し，13 章にその他としてあと施工アンカー，特定天井等の項目を設けた．

一方，構造計算のほとんどが一貫計算プログラムによる時代となり，入力さえ誤らなければ一定レベルの答えが出せるようになった．その反面，計算のブラックボックス化を招き，力の流れをイメージせずとも構造計算や構造設計が行えるようになっていることを編者は強く危惧するものである．したがって，本書は，現場でひけるポケットブックとしての役割はもとより，力の流れを手計算で追える参考書としての役割をも強く意識した構成としている．

なお，本書は，2020 年（令和 2 年）5 月時点の法令，学会規準等に整合を図っているが，それ以降の法令等改正は反映されていないため，読者諸兄におかれては最新の情報にご注意いただきたい．また，できる限り正確を期したつもりであるが，編者らの浅学のため不備の点があるやもしれない．ご指導いただければ幸いである．

本書を参考として構造計算や構造設計を行う場合は，読者の責任で内容の確認をされたい．

最後に，本書に引用させていただいた文献の著者の方々と，改訂にあたり多くの作業にご協力いただいた関係者の皆様に深甚の謝意を表する次第である．

2020 年（令和 2 年）7 月

編　　者